

◎令和5年度 第3回 相模原中等教育学校 学校運営協議会

1 学校評価報告書、及び学校教育計画「4年間の目標」に対する取組の達成度評価総括表について

○教育課程・学習指導

- ・桐蔭横浜大学と連携し、断続的に授業改善（研修3回）に取り組んだ。
- ・放課後の時間が少ないため、研究日の設定が難しい。

<ご質問>

- Q 昔の高校生と比べて、学力が下がってきているのではないか。説明する力はついてきていると思うが、基礎的な知識は身に付いていないのではないか。
- A 知識がないと表現できないというのは本校生徒は分かっている。世の中的には思考判断表現重視の影響か、しゃべることだけうまくなっているかもしれないが、本校生徒にそのようなことはないと感じる。

<ご意見>

- ・学習に関して、ルーブリックを生徒と先生が一緒に作り、理解していく。
- ・資格の取得が増えたことは良かった。どのようなプロセスで結果にたどり着いたのか、振り返りをし、チャレンジしていく。年度内での目標設定を、生徒が自分自身で引き出していく。
- ・振り返りを次に活かしていくのが次の課題。

○生徒指導・支援

- ・生徒会組織の見直し、前期と後期を一緒にし行っていく計画を立てている。
- ・引き続き、制服リサイクルに取り組む。
- ・1年生が、自分の心と身体を大切にす意識がまだ低いため、それに関する講演会を行った。
- ・生徒会執行部の生徒と改革をし、会則の見直しを行う。後日、臨時生徒総会を行う。
- ・サポートドックが始まった。生徒の支援強化に取り組み、成果があった。

<ご意見>

- ・生徒の変容や意識の変容を何で見えていくのか。生徒も自分自身で変わったと感じることが大切。

○進路指導・支援

- ・Formsを使って迅速に受験結果を集められた。今年度は、総合型選抜を積極的に受けている生徒が多かった。

<ご質問>

Q 進路変更や不登校の生徒はその後、どうなっているか。

A 学年によって違いはあるが、例年とあまり変わらない。

Q 興味を示すものが早い子は、自ら取り組んでいく。進路に関して、4年生になる前に、先生から何か助言をしていただければと感じる。

A 生徒は自分で決めることに不安を感じる。「父が、こうした方がいい、と言っていた」など。どこかで自分で決めることの覚悟をさせる必要がある。

Q 3年生の時に行われる校長面接後に、生徒はどのようになっているか。

A 食欲さ、変わろうとする気持ちはある。悩んでいる生徒には1日30分、取り組んでみなさい、と言っている。

Q 子どもたちが本当にやりたいことをやっているのか。親のコントロールが強く、ここから抜け出せない子どもが多いのではないか。

A 中高一貫校のデメリットは、親子離れのタイミングが難しいこと。教育は、気づきを与えることが大切。子どもへの興味が高すぎることも良くない。

<ご意見>

- ・生徒が中等生活6年間でなりたい姿にどう近づくことができたか、生徒自身がかかると良い。
- ・本日卒業式だった。生徒が卒業する際に、生徒同士がお互いの良さを分かり合えたら良いのではないかと感じる。

○学校管理・学校運営

- ・働き方改革として、職員の帰りますプレートを実施したが、有効活用されず、来年は行わない。
- ・また、留守電対応を導入した。忙しい学校のため、職員が楽になったわけではない。

<ご質問>

Q 職員の帰宅宣言カードを廃止後、その後の仕掛けはあるのか。

A 職員の机上のPCで、システムで年休など管理ができるようにした。

<ご意見>

- ・職員の健康や、長期の休みなど、報告書に記載してもよいのではないか。

2 その他

- ・来年度の学校運営協議会委員、及び日程について